

鳩貝太郎：日本藻類学会第20回大会海藻採集会参加記

1996年3月28日から東邦大学理学部で開催された日本藻類学会第20回大会に先立ち、3月25日から27日まで、館山市沖ノ島で海藻採集会が行われた。これから大型藻類を勉強しようという若い人をと募集したところ、たくさんの応募があった。中には精神年齢は誰よりも若いという定年後の経験豊かな人や、臨海実習の講師を頼まれているのだが、海藻はサッパリわからないで困っているという人もいたのだが、年齢の若い方から20人に参加をしてもらうことにした。結果的には間際になって不参加者があり、17人が参加した。

3月25日は朝から冷たい雨が降っていた。午後1時には、会場とした千葉県立水産共同実習所に全国から新進気鋭の若者達が集合した。吉崎誠大会会長みずから採集会の講師をつとめ、早速講義が始まった。採集会の趣旨説明に続いて、採集場所である館山市の特徴を次のように話された。「千葉県の南端にある館山市は、黒潮の影響を受けて暖海性海藻が多数生育している。今では埋め立てられて陸続きとなってしまったが、かつては鷹ノ島（高ノ島）は館山湾に浮かぶ島であった。ここに現在の東京水産大学の前身である水産講習所の臨海実験所があった。岡村金太郎先生は、ここで海藻の研究をしたことから、館山湾を基準産地とする海藻がたくさん記載された。今回の採集会では日本藻類図譜の図とそっくりな形をした海藻がたくさん採集できる。是非たくさんの海藻を採集し、たくさんの押し葉を作ってほしい」。参加者の熱意が通じて、講義の途中で雨もあがったので宿舎とした「大浜旅館」のマイクロバスで沖ノ島に向かい、そこで2時間ほど海藻の採集をした。沖ノ島もかつては館山湾に浮かぶ小島であったが、埋め立て地と砂州でつながり、陸繋島となってしまった。時にこの砂州に大量の海藻が打ちあがったり、漂ったりしているのだが、今回はわずかであった。参加者はまだ冷たい海に入り、熱心に海藻の採集に夢中であった。実習所に帰ると、すぐに押し葉作りにとりかかった。採集してきた海藻を台紙に広げたとこで吉崎先生に種名を確認してもらった。25日の採集だけでは、種類が限られるであろうことを予測していた吉崎先生は、大会準備で忙しいにもかかわらず、24日には館山に採集に来て、たくさんの種類

を取りそろえて準備してくれていた。それらを参加者に種名を教えながら配布し、押し葉の種類数を増やせるように配慮していた。夕方6時から1時間の夕食後、10時半までもみな熱心に押し葉作りに励んだ。そのために、用意したさらし布と新聞紙は底をつき、追加の手配をしなければならなかった。

26日は、朝食の後、8時15分から講義を開始した。藻類の分類群と特徴について、ヒビロウドの生活環について話され、続いてヒビロウドの生殖器官と果孢子体の発達過程を顕微鏡で観察した。午後は再びバスで沖ノ島へ採集に出発した。沖ノ島の手前の岸壁では海



藻の生育帯の観察、記録の取り方など詳しく説明された。採集では先日とは異なり、ほとんどの人がねらいをつけて採集をしていた。採集後、鷹ノ島の弁天社の境内にある、博士漁翁岡村（漁翁は岡村金太郎先生の号）の銘がある石碑の前で記念撮影をした（写真）。碑文をここに紹介する。「此処に鎮座まします巖島太神は嘉保年間当国の国司源親元公の勧請する所にして靈驗あらたかに漁人の崇敬常に浅からざりしも年代の久しき神域漸く荒廃せんとするを憾とし茲に大正九年極月十二の網主相議り神威を永遠に仰がため修理を施し管轄を行い馬刀藻樵三百本杉五十本を植え輪魚の美を昔日に復するを得たり因って碑を建て此企に興れる者の芳名を録し永く後昆に伝えんとす

大正十年旧三月十五日 博士 漁翁岡村 撰

（この下に館山会網総代網世話人 堀口辰之助 他

14名の刻名がある) 碑は高さ2mに少し足りず、幅70cmである。

沖ノ島から帰ると誰もが直ちに押し葉作りをはじめた。海藻の名前もだいぶおほえ、押し葉作りも手慣れて、目標とした1人100枚の押し葉作りに大部分の人が成功したようであった。

27日も昨日同様に講義をスタートし、顕微鏡観察が行われた。作った押し葉は、段ボール板にはさんで通風乾燥した。大量に作った押し葉は東邦大学の実習室に運ばれて乾燥を続け、29日の学会終了後に吉崎先生が種名を確認して、参加者に手渡された。各自が、吸水紙の交換をすることなく3日後にはできあがったたくさんさんの押し葉を持ち帰れることは夢のような素晴らしいことであった。

今回の参加者は次の通りである。

江端弘樹・谷 昌也・嶋田 智・山岸幸正(北大・理・大学院)、奥村宏征・村松知明(三重大・生物資源・大学院)、加藤惣一郎(鹿児島大・水産)、佐久間茂雄・守屋真由美(筑波大・生物)、高津 翼(芙蓉開発)、竹内亜希子・大門由佳・永井祐二(東邦大学・生物)、前田修之(佐賀・伊万里農林高)、奈島弘明(兵庫・夢野台高)、松山和世(東水大・大学院)、吉永一男(三洋テクノマリン)。

参加者の感想の一部を紹介する。

今までの臨海実習で海藻標本を作ったことはあったが、これほど多量に作ったことはなく、よい経験でした(奥村)。採って、採って、作って、作って、大満足な採集会でした。吉崎先生の鋭い徹やかにこやかな笑顔は最高でした(嶋田)。採集会に参加して多くの人と知り合えたことは大変うれしいことです。また、標本を速く、きれいに、たくさん作ることを覚えたことは、これからの知識の蓄積に役立つと思います(谷)。初日の海につかっただけの採集はとても冷えました。けれど、バケツに8分目ほども採集でき、押し葉を作りながら少しは名前が覚えられたのではないかと思います。今回の採集会では、藻類を扱う同じ仲間を得られたことが大きな収穫でした。このような採集会はずっと続けてゆく方がよいと思います(守屋)。今回参加して本当に良かった。紅藻類が何種類か見分けがつくようになった。ヤブレグサを採集できたのもうれしかった(奈島)。誰も教えてくれる人がいない状態で多少行き

詰まりを感じていました。これを機会にさらに勉強を進め、佐賀の海藻目録を作りたいと思っています。吉崎先生はじめ多くの人と話ができて、実習ができ、つながりが持てたことに感謝します(前田)。自分が長らく調査をしている場所では、よく知っていると思っていた海藻と、沖ノ島で採集したものの形態が大きく異なっていることに驚いた。海藻の形態の地域変化を改めて実感すると共に、同種であっても各地のサンプルを知るとということがとても重要であることを実感した。さらには実際に採集したことによって海藻の生育環境を知ることがいかに必要であるかも実感させられた(吉永)。

今回採集できた海藻をリストアップする。紅藻類：マルバアマノリ、オニアマノリ、カモガシラノリ、フサノリ、ヒラフサノリ、ニセフサノリ、ヒラガラガラ、マクサ、オバクサ、ヒビロウド、ビリヒバ、ヘリトリカニノテ、キントキ、コメノリ、トサカマツ、ヒトツマツ、ハナフノリ、フクロフノリ、サクラノリ、ニクムカデ、タンバノリ、フダラク、ツルツル、ムカデノリ、ユカリ、カイノリ、スギノリ、ベニスナゴ、ホウノオ、ミリン、ツノマタ、オキツノリ、ハリガネ、トサカノリ、オゴノリ、オオオゴノリ、ミゾオゴノリ、カバノリ、シラモ、ツルシラモ、イバラノリ、カギイバラノリ、サイダイバラノリ、タチイバラノリ、アツバノリ、フクロツナギ、フシツナギ、ケイギス、サエダ、ナガウブゲグサ、カギウスパノリ、シマダジア、ユナ、キクソソ、クロソソ、コブソソ、コザネモ、ホソコザネモ。褐藻類：カゴメノリ、カヤモノリ、シワノカワ、ネバリモ、フクロノリ、フトモズク、イシゲ、イロロ、イワヒゲ、ハバノリ、ムチモ、アラメ、カジメ、クロメ、ワカメ、アミジグサ、コモングサ、サナダグサ、オオバアミジ、ヘラヤハズ、ヤハズグサ、ウミウチワ、ヒジキ、ジョロモク、アカモク、ウミトラノオ、イソモク、エンドウモク、オオバノコギリモク、オオバモク、ノコギリモク、タマハハキモク、ヤツマタモク、マメダワラ。緑藻類：ヒトエグサ、ウスバアオノリ、ボタンアオサ、アナアオサ、ヤブレグサ、チャシオグサ、オオシオグサ、ハネモ、ミル、クロミル、ナガミル。

(〒153 東京都目黒区下目黒6-5-22 国立教育研究所科学教育研究センター生物教育研究室)